

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878

第14回環境フォーラム

「三河湾環境再生プロジェクト
 自然環境絶滅危機調査」

平成30年11月18日

午前10時より12時迄

場所 渋川福祉センター3階

参加 環境部生活環境地盤

対策室室長補江

高井氏の講演

内容については三河湾の現状に
 ついて三河湾の地形と水の汚れの
 関係と赤潮や酸素欠乏地塊や苦潮
 の発生メカニズムとして海をきれい
 にするアクリの働きなどを説明
 出席者は新しい海のメカニズムに



2018/11/18

驚くと共に、
 海にあまり
 関係はな
 なかった
 配られた
 資料も夏
 から非常に
 興味を持
 っていました
 又引き続
 いて行われ
 下
 自然環境絶
 滅危機調査
 体験の講演
 では環境
 産産
 高橋賢一
 氏の説明で
 世界遺産
 の神社



2018/11/18

京都下鴨神社の神社
 フォトアイの絶滅危種
 の問題に懸れてその自生地



2018/11/18

第14回環境フォーラム
 (三河湾環境再生プロジェクト外・自然環境絶滅危機調査体験)

枕巻下しを持ち出
 さいとも秋と冬は
 夕焼けが美しい
 本影がある
 空気が澄んで赤か
 絶妙な色をなげる
 あれば懐かしい光
 線である
 光線と浴びると人
 は昔を思い出す

の保全に係っていること
 語った
 それに続いて今マスコミ
 含めて問題になっている
 川から海に流れているマイ
 クプラスチックの話題に
 ついて現在保育園では
 絵巻居(本巻居)が主
 であり森と川と海のメカニ
 ズムとしてスポンジの役割
 果たすスポンジが海に流れ
 て魚がエサと間違えて
 魚の腹にはプラスチックの
 さを粉が多量に入っていること
 調査結果が出た
 このままだとプラスチック
 プラスチックの量が
 世界の海では魚と同量に
 なっている現状に驚かす
 このような現状を踏まえて
 出席者も環境部の方の
 ことに係る
 真剣に話を聞きたい



2018/11/18

地産環境活性化協議会
 代表 高橋の挨拶
 尾張旭市環境課長 木戸耕浩氏



2018/11/18

第14回環境フォーラム
 (三河湾環境再生プロジェクト外・自然環境絶滅危機調査体験)